

今週（4月27日から5月1日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールO/N物については、0.727～0.728%近辺での出合いが中心となった。加重平均レートは、月末月初においても大きな変動は見られず、27日(月)～30日(木)にかけては0.727%で推移した。1日(金)も概ね同水準での取引が中心となった。同O/N物の市場残高は、一部投資信託の運用額が減少していることから、2兆円台半ば～後半の低水準で推移している。

ターム物は、保険業態による付利以下での運用と、証券業態やネット銀行による実需に基づく調達为中心となり、0.7台前半～1%程度での出合いが見られた。4月28日の金融政策決定会合後、次回会合までの日数が伸びたことからレート水準は一時的に低下している。

日銀当座預金残高は、週初469兆円程度からスタートし、本日実施される国債の発行や税揚げを受けて466兆円台まで減少することが見込まれている。

なお、27日(月)・28日(火)に開催された日銀金融政策決定会合では、当面の金融政策運営について、現状維持が決定された。

●債券レポ市場

今週の債券レポ市場 GC T/N物の出合い水準は、0.745～0.76%程度で推移する展開となった。

SC取引の個別銘柄では、2Y475～484回、5Y170～184回、10Y355～382回、20Y180～196回、30Y65～90回、40Y10～18回などで引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3Mゾーン、1Yゾーンが軟調に推移した。

1日に実施された3M物入札は、事前予想よりも強い結果となり、セカンダリーでは堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、卸売、石油、不動産、食料品等複数の業態で大型発行が見られた。

市場残高は、週を通して23兆円台前半で推移した。

発行レートは0.75%以上で推移している。6月の金融政策決定会合までの期間についてはターム格差が拡大せず、限定的な範囲に収まりつつあるものの、引き続き銘柄や期間によって投資家の運用目線にばらつきがみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
4/27 (月)	60,537.36	2.470	159.53	0.727	0.752	4,678,100
4/28 (火)	59,917.46	2.460	159.49	0.727	0.745	4,690,600
4/29 (水)						
4/30 (木)	59,284.92	2.515	160.27	0.727	0.751	4,694,600
5/1 (金)	59,513.12	2.500	157.17	0.727	0.753	4,663,700

5月7日から5月15日の短期金融市場動向

●経済カレンダー (※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要があります。)

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/7 (木)	金融政策決定会合議事要旨(3月18、19日分 8:50) 4月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	TDB6M 5/11発行 38,000億円			3月の米消費者信用残高 2・3月の米建設支出
5/8 (金)	3月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 5月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	TDB3M 5/11発行 44,000億円	流動性供給 5/11発行 7,000億円	エネルギー借入 5/20借入 7,481億円	4月の米雇用統計 3月の米卸売売上高 5月のミシガン大消費者信頼感指数速報
5/11 (月)					4月の米中古住宅販売件数
5/12 (火)	決定会合における主な意見(4月27、28日分 8:50) 4月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 3月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 3月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)		10Y物 5/13発行 26,000億円	交付税借入 5/22借入 11,000億円	4月の米消費者物価指数 4月の米財政収支
5/13 (水)	3月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 4月の景気ウォッチャー調査(内閣府)				4月の米生産者物価指数 1-3月期のユーロ圏GDP2次速報値
5/14 (木)	増日銀審議委員 鹿児島経済同友会における講演 4月のマネーストック(日銀 8:50)		30Y物 5/15発行(見込) 6,000億円	国有林借入 5/25借入(見込) 950億円	4月の米小売売上高 3月の米企業在庫 1-3月期の英GDP速報値
5/15 (金)	4月の企業物価指数(日銀 8:50)	TDB3M 5/18発行(見込) 46,000億円			4月の米鉱工業生産・設備稼働率

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オヘ種類	期日分	新規実行分	オヘ合計	実質過不足	需給要因
5/7 (木) 日銀予想	900	▲ 94,800	▲ 93,900	国債補完	2,300		2,300	▲ 91,600	TB3M発行▲46,000償還47,000 10Y物価連動発行▲2,500 交付税借入▲12,500償還13,000
5/8 (金) 弊社予想	2,500	0	2,500				0	2,500	
5/11 (月) 弊社予想	2,000	▲ 7,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	TB3M発行▲44,000償還47,000 TB6M発行▲38,000償還35,000 流動性供給▲7,000
5/12 (火) 弊社予想	1,500	▲ 1,000	500				0	500	
5/13 (水) 弊社予想	1,300	▲ 27,000	▲ 25,700	全店共通	▲ 8,000		▲ 8,000	▲ 33,700	10Y発行▲26,000
5/14 (木) 弊社予想	1,300	0	1,300				0	1,300	
5/15 (金) 弊社予想	1,000	▲ 10,000	▲ 9,000				0	▲ 9,000	30Y発行▲6,000 個人向け発行▲9,000(見込)償還700 交付税借入▲12,500償還13,000

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き堅調な資金調達ニーズが見込まれ0.727~0.728%近辺、ターム物は0.7%台前半~1%程度での出会いが中心となることが予想される。債券レポ GC T/N物のレートは、0.75~0.76%程度の水準で推移することが予想される。短国市場は、5月8日(金)・5月15日(金)に3M物、5月7日(木)に6M物の入札が予定されている。CP市場は、大型連休明けで発行案件がどの程度膨らむか注目される。

来週の主要なイベントとして、国内では7(木)に金融政策決定会合議事要旨(3月18、19日分)、12(火)に決定会合における主な意見(4月27、28日分)、4月のマネタリーベースと日本銀行の取引、14(木)に4月のマネーストック、15(金)に4月の企業物価指数などが公表予定である。海外では8(金)に4月の米雇用統計、3月の米卸売売上高、11(月)に4月の米中古住宅販売件数、12(火)に4月の米消費者物価指数、13(水)に1-3月期のユーロ圏GDP速報値、14(木)に4月の米小売売上高、1-3月期の英GDP速報値、15(金)に4月の米鉱工業生産・設備稼働率などが公表予定である。

(※尚、米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要があります。)

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はおお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。